

**安藤たい作プロフィール** '74年 宮城県仙台市生まれ32歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。現在、住民運動対策委員長、党品川地区青年支部長。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

第1号



日本共産党  
Japanese Communist Party

## 安藤たい作 ニュース

「将来に希望や安心感」を持って暮らしたい！  
こんな当たり前のこと、  
求めてはいけないのでしょうか？

みなさまはじめまして、安藤たい作です。この地域で8期32年間区議をつとめてこられた沢田英次さんと力を合わせて品川区の政治の問題に取り組んで行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### 上昇する日本の「貧困率」、 拡大する「格差」

さて、わたくしは四年間、「派遣」として五反田の職場で働いておりました。いわゆる「フリーター」です。今青年の一〇人に一人が職につけず、2人に1人がパートやアルバイト、派遣などの「非正規雇用」と言われています。もちろんボーナスは出ず、交通費も支給されません。今の青年にとっては「結婚して子どもを産み育てること」こんな当たり前の幸せを描くこと自体が難しくなっているのを感じています。「『非正規雇用』の割合は十年間で一〇%以上増え三〇%を越えた。パートの時はフルタイムの四〇%に過ぎず、こうした『労働市場の二極化の拡大』が日本の『貧困率』を急激に上昇させた主な原因である」とOECD（経済協力開発機構「対日審査報告書」(2006)）で指摘されました。日本の貧困率は一三・五%でアメリカに次いでOECD加盟国中第二位。日本の「格差社会」は、ついに国際的に認知されるまでいたったわけです。

\*「貧困率」・税金や社会保険を引いた自由に使える所得と比較。丁度真ん中の順位の人所得を「中央値」とし、その半分の所得しかない人が全体に占める割合。

### 本来の政治の役割とは―― 「所得の再配分」

罪深いのはこの格差を、正社員を非正規雇用置き換えて人件費を減らそうという財界の身勝手な要求に政治が「規制緩和」で応えて、後「上」にしてきたことです。の社会なら、「政治」は要りません。から税金を、それを社会保などで貧困や格差を正すために使う「所得の分」が政治の本の割なのではないでしょうか。

安藤たい作は政治にこの当たり前の仕事をさせるために頑張ります！！

★生活相談は3490-6055またはantai@h2.dion.ne.jpまでお気軽にどうぞ。沢田英次区議と一緒